

**令和6年（2024年）6月21日に  
鹿児島県(奄美地方を除く)で線状降水帯が発生した事例**

---

令和6年7月 気象庁大気海洋部

# 気象の概況、線状降水帯に関する情報の発表状況

## 【気象の概況】

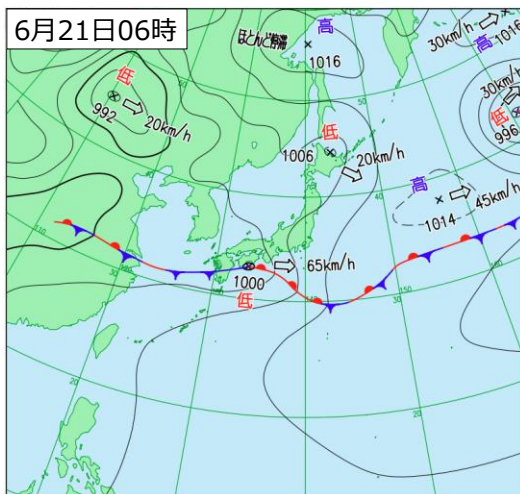
- ・梅雨前線が東シナ海から九州を通して日本の南へのび、前線に向かって暖かく湿った空気の流れ込みが強まったため、20日から前線の活動が活発となり、九州南部を中心に大雨となった。

## 【線状降水帯に関する情報の発表状況】

- ・鹿児島県(奄美地方を除く)及び宮崎県を対象に、6月20日の気象情報にて、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施した。
- ・6月21日に鹿児島県(奄美地方を除く)を対象に顕著な大雨に関する気象情報を発表した。

## ○ 線状降水帯に関する情報の発表状況

地方予報区	府県予報区※1	半日程度前からの呼びかけ※2、※3	顕著な大雨に関する気象情報※4	3時間降水量の最大値※5、※6
九州南部・奄美地方	鹿児島県(奄美地方を除く)	6月20日10時58分	6月21日05時18分(大隅地方) 6月21日05時27分(薩摩地方、大隅地方)	約150ミリ 約150ミリ
	宮崎県	6月20日10時58分	なし	約80ミリ



※1 鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表する。

※2 一連の現象で複数回呼びかけた場合は、最初の呼びかけ日時のみ掲載。

※3 全般気象情報、地方気象情報、府県気象情報のうち、一番早く発表された情報の時刻を掲載。

※4 線状降水帯の発生をお知らせする「顕著な大雨に関する気象情報」は、現在、10分先、20分先、30分先のいずれかにおいて、以下の基準をすべて満たす場合に発表する※7。

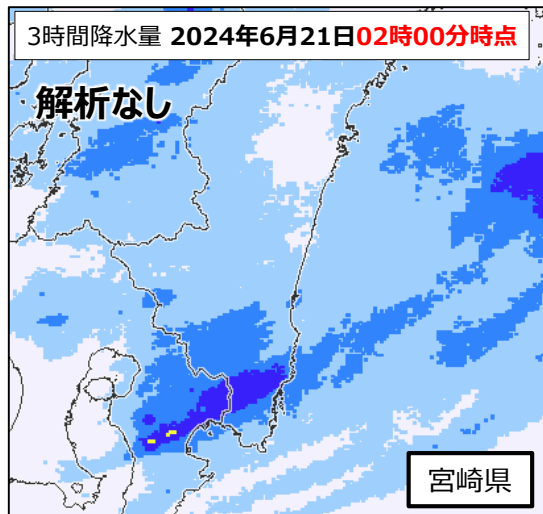
① 前3時間積算降水量(5kmメッシュ)が100mm以上の分布域の面積が500km <sup>2</sup> 以上	形状の基準
② ①の形状が線状(長軸・短軸比2.5以上)	形状の基準
③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上	雨量の基準
④ ①の領域内の土砂キキル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)において土砂災害警戒情報の基準を超過(かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上)又は洪水キキル(洪水警報の危険度分布)において警報基準を大きく超過した基準を超過	危険度の基準

※5 顕著な大雨に関する気象情報の発表をした事例については、線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値を示している。

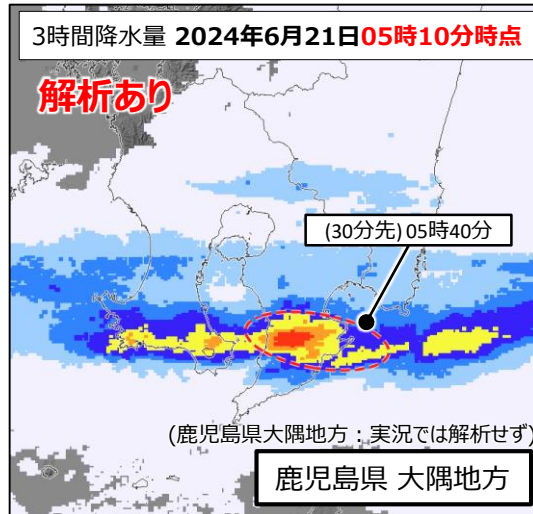
※6 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施したものの、顕著な大雨に関する気象情報を発表しなかった府県予報区については、期間中雨量が多かった時間帯における3時間降水量の最大値を示している。

※7 情報を発表してから3時間以上経過後に発表基準を満たしている場合は再発表するほか、3時間未満であっても対象区域に変化があった場合は再発表する

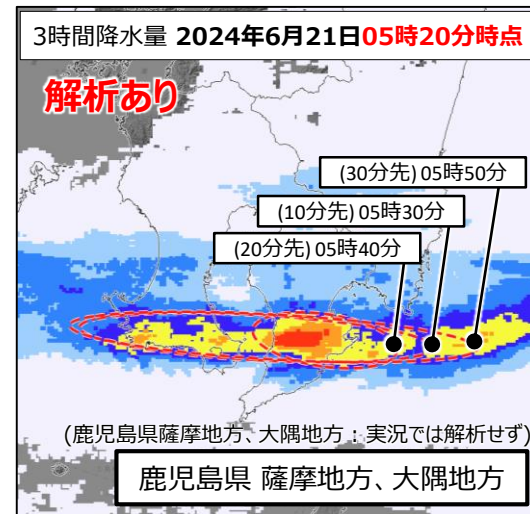
# 線状降水帯の解析状況



宮崎県における3時間降水量の最大値は  
**約80ミリ**



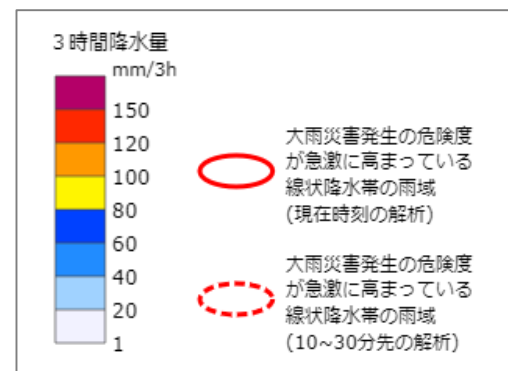
線状降水帯の雨域における3時間降水量の  
最大値は**約150ミリ**



線状降水帯の雨域における3時間降水量の  
最大値は**約150ミリ**

- ・ 顕著な大雨に関する気象情報の発表をした事例については、それぞれの地域における、当該情報の発表に用いた線状降水帯の雨域(ラベル付き)及びその解析された時刻を示している。
- ・ 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施したものの、顕著な大雨に関する気象情報を発表しなかった府県予報区については「解析なし」とし、期間中雨量が多かった時間帯の雨量の状況を表示している。
- ・ 各府県予報区の3時間降水量の最大値は5kmメッシュに平滑化した値を記述しており、1kmメッシュの3時間降水量分布図の最大値と一致しない場合がある。

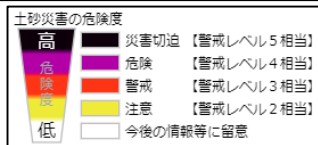
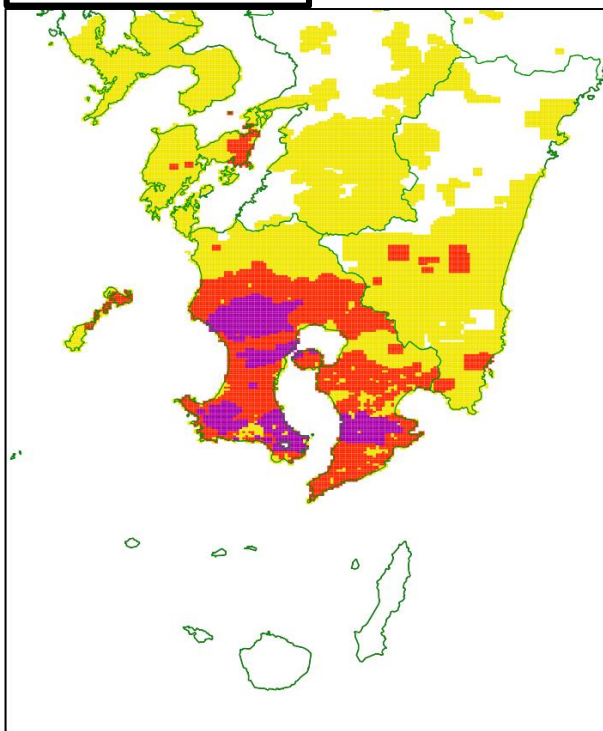
※雨量の基準は超えたが顕著な大雨に関する気象情報が発表されなかった場合は、満たさなかった基準を記す。



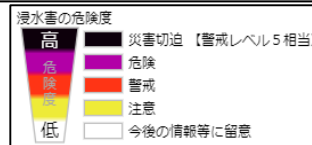
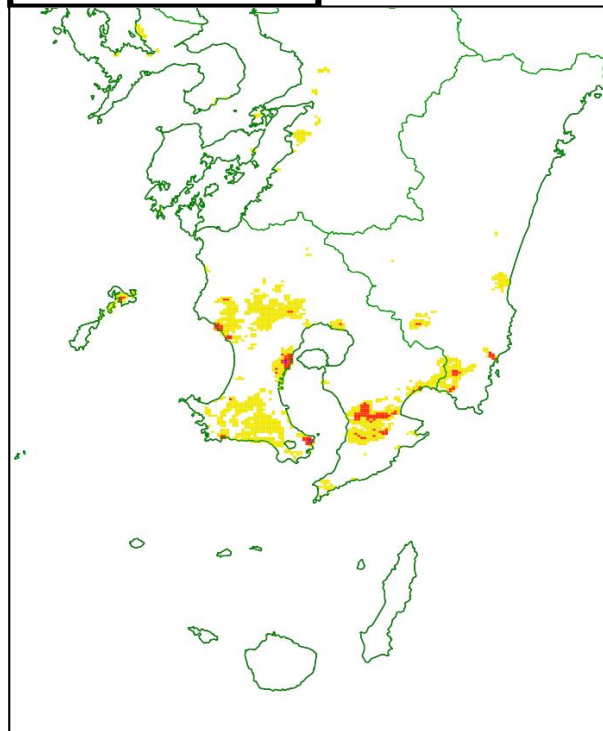
# (参考) キキクル (危険度分布) の状況

6月20～21日：鹿児島県では、土砂キキクルにおいて危険(紫)が広がったほか、浸水キキクルや洪水キキクルでも危険(紫)が出現した。

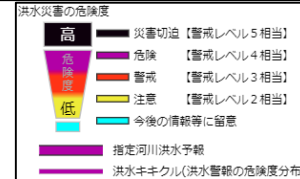
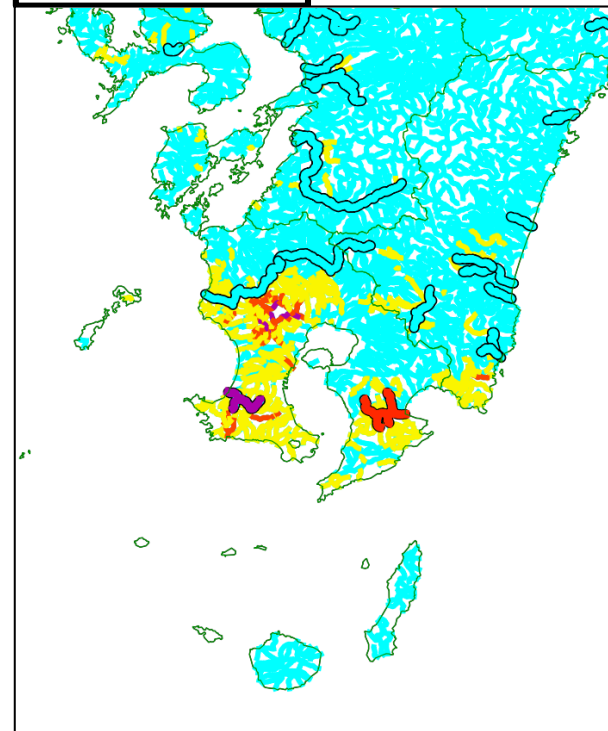
## 土砂キキクル



## 浸水キキクル



## 洪水キキクル



6月20日12時から21日12時にかけて出現した最大の危険度

# 本資料について

- 本資料は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施した事例、又は線状降水帯が発生した事例※<sup>1</sup>について速報的にまとめた資料です。

※1 「線状降水帯が発生した事例」とは、前出の「顕著な大雨に関する気象情報の発表基準」を満たした場合をいいます。

- 本検証資料は「大雨事例等における防災気象情報の精度検証と発表基準の改善」のページからアクセスできます。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jirei/index.html>

- 関連する情報は、「線状降水帯に関する各種情報」のページをご覧ください。

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/kishojoho\\_senjokousuitai.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/kishojoho_senjokousuitai.html)

- 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを、府県予報区単位※<sup>2</sup>で実施していることから、検証も府県予報区単位で実施しています。

※2 鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表します。

現在の技術では、線状降水帯による大雨の正確な予測は難しく、呼びかけを実施しても必ずしも線状降水帯が発生するわけではありませんが、線状降水帯が発生しなくても大雨となる可能性は高いため、この情報が発表されたときには心構えを一段高めてください。

また、線状降水帯による大雨の呼びかけがなくても、線状降水帯が発生したり、災害をもたらすような大雨となったりすることがあるため、自治体が発令する避難情報や、大雨警報やキキクル等の段階的に発表される防災気象情報とあわせてご活用ください。